



# 8月の園だより

令和7年8月1日

目黒区立祐天寺保育園園長

厳しい暑さが続いています。日よけに加えサーキュレーターやミストをフル活用し、環境を整えて、プールや水遊びを行っています。どのクラスも日ごとに大胆になってきています。5歳クラスの子どもたちが、洗濯機と称しプール内をぐるぐると走り水流を作っては「セーノ」で体を浮かべています。何回も繰り返すうちに、一人が「しゃがんで走るといいよ」と発見しました。しゃがむことで、全身で水の抵抗を受け、さらに強い水流を作れるという発想です。「いいね」とばかりにみんなでやってみると、今までにない勢いが出ました。走りながらも感じる水流に「お～～」「わ～～」と大きな歓声があふれていました。勢いよく流れる水に身を任せて浮かぶ姿は本当に気持ちよさそうです。まさに水を得た魚といった感じです。

連日のプール遊びに幼児のどのクラスも、保育士と遊びながら大きな笑い声が絶えません。その中で、ふと潜れたり、体を浮かべることができたりしています。

「〇ちゃんね、もぐれたんだよ」等の報告を保護者の方にする姿を多く見かけています。楽しいことが子どもの力を引き出すことを、改めて感じている夏です。

プールのための早めの登園にご協力いただきありがとうございます。

まだまだ暑さは続くようです。引き続きの体調管理をよろしく願いいたします。



## <行事予定>

プールじまい

避難訓練・身体計測

## また明日もやろう

レンガ積み木で線路とトンネルを作る3歳児の子どもたち。初めは保育士と一緒に作り始めますが、次第に子どもたちだけで繋げ「この上も走れるんだよ」「これはパンタグラフ」とイメージを膨らませながら楽しんでいます。

また、4歳児は家作りに夢中になっていて「こんなにいっぱい車があったら

いいね」と友達と話しながら駐車場を作り木製の車をきれいに並べ、レンガ積み木とカプラを組み合わせ

て3階建てに作り、そこに積み木用の小さな人形を各階に置き「みてみて、これ一緒に作ったんだよ」

「ここは温泉なんだ。テレビもあるよ、濡れても大丈夫なんだよ」と友達に説明し、会話を楽しみながら

遊んでいます。そして、5歳児はカプラを複雑に組みながら高く積み上げ、橋や川を作りながら友達と部屋いっばいに大きな町を作っています。それぞれしつ

かりとイメージを持っているので、お互い譲れず思いがぶつかることもありますが、その時には保育士がそれぞれの思いを聞き、仲立ちをしながら作り上げて

いきます。完成に数日かかることもよくあります。時には完成途中で壊

れてれてしまい、「あと少しだったのに」と残念そうですが「もう一回一緒にやってみよう」と励ましなが

ら次への意欲に繋げ、自分たちが経験したことや想像の世界を構成遊びの中で日々表現し楽しんでいます。今日の遊びの続きをまた明日も出来る、という環境を大切にして繰り返し遊んでいきます。





## 0・1・2歳児クラスの水遊びの様子



### ちゅうりっぷ組（0歳児）

#### 《どうやったら水が出るかな》

蛇口から水が出ることに興味津々です。その興味を水遊びでどうにか叶えてあげられないかとテラスにウォータージャグを設置してみました。水を出して見せると、「私もやりたい」と早速、手を伸ばす子がいました。レバーを触っているうちに水を出せるようになったのですが、レバーから手を離すと水が止まってしまう。不思議そうにしていたので「お水出てこないね」と保育士が声を掛けると、「よし、もう一回」というような真剣な表情で再び触り始めました。毎日遊ぶうちにレバーを奥まで押すと水が出続けることに気付き、見事カップに水を入れることができました。「お水いっぱい出てきたね」と保育士が声を掛けるととても嬉しそうに笑っていました。カップに入れた水をこぼしたり蛇口から出る水に手を伸ばして冷たさや気持ち良さを感じたりしながら日々楽しんでいます。子どもたちのやってみようという思いを見守ったり発見したことを共に喜んだりしながら一緒に遊んでいきます。



### たんぼぼ組（1歳児）

#### 《ふれて、きいて、目でみて》

テラスに数か所穴をあけた大きなビニールを屋根のようにして張ってみました。その上からシャワーをかけると、穴から水滴が落ちてきたりビニールにあたるシャワーの水が、ババッ、バシャッと弾くように大きな音をたてたりします。その様子を見ていた子が屋根の下へいき「あめ、あめ」と指さしながら穴から出てくる水を掴もうとします。しばらくするとペットボトルを持ってきて水を入れようとするのですがなかなか集まらず、そして今度はミニジョーロを持ってきてポタポタと落ちる滴を集めようとしていました。ジョーロの中には少ししかたまりませんでしたが、とても満足そうな表情をしていました。



水という素材に触れながら色々と試してみる中でそれぞれの発見を楽しみ、友達のしていることにも興味を持って一緒にやってみる中で遊びが広がっています。保育士も一緒に遊びながら一人一人の発見に共感し、水の感触や音など五感を使って心地よさを味わっていきっていきます。

### ひまわり組（2歳児）

#### 《不思議と発見》

「今日も魔法の粉入れて」と食紅を入れた赤、黄、緑の色水で遊ぶことを毎日楽しみにしています。色水を用意した初めの頃は、タライの中に手を沈めて「手が緑になった！でも出すと緑じゃないね」と不思議そうに自分の手を見つめる姿もありました。そして「赤はいちごで、黄色はレモンで、緑はメロン味ね」とジュース屋さんもオープンです。色水を入れたカップをたくさん並べ「いらっしゃいませ」「どうぞ」と友達とのやりとりも楽しんでいます。そうした中で「赤と黄色を混ぜてみよう」と試してみる子が出てきました。ペットボトルの中の赤に黄色が混ざると「オレンジジュースになった！」と目を丸くしています。友達の発見を見て周りの子もそれぞれに色を混ぜ始め、「麦茶みたい」「ピンクで桃ジュースみたい」と様々なミックスドリンクが出来上がり、色の不思議に触れながら水遊びを楽しんでいます。子どもたちが発見したことや感じたことに保育士も共感しながら、「これはどうなるだろう」という次への興味関心が広がるように関わっていきます。

